改　善　報　告　書

大　学　名　称　　　　　　　　○　○　大　学　（評価申請年度　20XX年度）

知的財産専門職大学院名称　　○○研究科（○○専攻）

１：是正勧告に対する改善計画及び改善完了報告

|  |
| --- |
| ＜作成上の留意点＞1. 改善計画に関する事項（「大項目／項目」「是正勧告事項」「評価当時の状況」「改善計画」「改善達成予定」欄）は、評価結果を受領した翌年度の指定期日までに提出すること。
2. 改善完了報告に関する事項（「評価後の改善状況」「改善状況を示す具体的な根拠・データ等」欄）は、評価結果を受領した２年後の指定期日までに提出すること。
3. 改善計画及び改善完了報告は、是正勧告１点ずつに対して作成すること。そのため、

「是正勧告事項」欄は、評価結果に記述された是正勧告事項をそのまま転記すること。1. 改善完了の状況を示す具体的なデータを根拠資料として提出すること。
 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| № | 種　　別 | 内　　容 |
| 1 | 大項目／項目 | (例)３．教員・教員組織項目：教育にふさわしい教員の配置 |
| 是正勧告事項※評価結果に記載された是正勧告を転記 | (例)１）当該専攻の設置基準上必要専任教員数は11名であるにもかかわらず、20XX年XX月1日現在９名の専任教員で構成されているため、早急に改善することが求められる（評価の視点3-X）。 |
| 評価当時の状況※評価当時の状況を振り返って記載 | (例)本専攻設置時には11名の専任教員を擁していたが、20XX年度に１名、20XX年度に１名が退職した際に補充できなかったため、20XX年XX月１日現在では９名の専任教員となっていた。 |
| 改善計画※指摘事項への対応・計画を記載 | (例)20XX年度に専任教員の公募を行い、20XX年４月１日から採用する教員を募集しているところである。20XX年XX月X日時点で○名の応募があり、専攻分野・実務経験（実務家教員の場合）・教育及び研究実績等を勘案し、採用することとしている。 |
| 改善達成予定 | (例)20XX年４月 |
| 評価後の改善状況 | (例)20XX年度の公募では、20XX年４月１日より採用する教員を１名決定したが、不足するもう１名については選考の結果、適任者がいなかったため、空席となっていた。その後、教授会にて検討の結果、○○分野を担当できる実務家教員が必要と考え、ワーキンググループを設置し、候補者の選定及び打診を行った結果、20XX年９月１日付けで1名採用が決定した。 |
| 改善状況を示す具体的な根拠・データ等(例)№1-1．20XX年５月１日現在の基礎要件データ表９～15№1-2．新規採用教員の教育研究業績 |
| **＜大学基準協会使用欄＞** |
| 概評 |  |

※必要に応じ、記入欄はコピーして使用してください。

２．検討課題を踏まえた課題解決計画

|  |
| --- |
| ＜作成上の留意点＞1. 課題解決計画は、評価結果を受領した翌年度の指定期日までに提出すること。
2. 本文書の別添資料として、課題解決計画に関する任意の資料を知的財産専門職大学院認証評価委員会へ提出することができる。
3. 課題解決計画は、検討課題1点ずつに対して作成すること。ただし、検討課題の内容が関連している場合は、１つの課題解決計画の中で複数の検討課題に言及してもよい（その場合は、対応する検討課題を全て「検討課題事項」に列記すること）。
 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| № | 種　　別 | 内　　容 |
| 1 | 関連する大項目／項目 | (例)２.教育課程・学習成果、学生項目：教育課程の設計と授業科目  |
| 検討課題事項※評価結果に記載された検討課題を転記 | (例)１）当該専攻では、学生から相談があった場合に必要に応じて履修指導を行う体制をとっており、組織的な指導が十分に行われていないため、改善が望まれる（評価の視点2-X）。 |
| 評価当時の状況※評価当時の状況を振り返って記載 | (例)本専攻では、計○科目を開講し、多岐にわたる知的財産分野に対応することで学生のニーズに応えることを重要視していた。そのため、学生自らの学びの目的に応じて履修することとし、特段必要のない場合には履修指導等を実施してこなかった（学生から相談があった場合には、研究科長が対応することとしていた）。本専攻では学生の大半が実務経験を有する社会人学生であるため、自主性を尊重する方針をとり、カリキュラム編成においても分野別に分類することで体系化を図っていた。 |
| 課題解決計画※指摘事項への対応・計画を記載 | (例)検討課題の指摘を受け、評価結果を受領した後に学生と教職員が意見交換を行う「○○大学知的財産専門職大学院意見交換会」を開催し、意見を聴取したところ、学生から①カリキュラムを段階別に分類すること、②組織的な履修指導・相談を実施すること、③各科目においてどのような能力の修得を目指しているのかを明確にすること、の必要性が提案された。　検討課題の指摘及び学生からの意見を踏まえ、20XX年度のカリキュラムより、開講科目を「コア科目」、「基礎科目」、「発展科目」及び「応用科目」に分類し、再編成する予定である。また、入学ガイダンス終了後に「履修についての説明会」を開催するほか、学生に履修計画書の提出を義務付け、研究科長、専攻長、教務委員長・委員の計５名で分担して確認することを検討している。さらに、各科目のつながりを明確にするため、シラバスに「履修条件」を記載するよう、様式の改善検討を始めている。　また、中期的な作業目標として、開講科目のカリキュラムマップを作成し、各科目において修得を目指す能力を明確に示すこととしたい。そのためにも、再度、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の確認とカリキュラムポリシーの見直しを実施したいと考えている。＜別添資料＞「改善計画PPT資料」１～３頁 |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| № | 種　　別 | 内　　容 |
| ２ | 関連する大項目／項目 | (例)３.教員・教員組織項目：教育研究条件・環境及び人的支援 |
| 検討課題事項 | (例)１）専任教員の研究室が複数のキャンパスに分散しており、教員の情報共有や学生への対応が不十分であるため、改善が望まれる（評価の視点3-X）。 |
| 評価当時の状況 | (例)　本専攻は、既存する○○研究科、○○研究科及び○○研究科を統合する形で専門職大学院として設置された。この経緯により、専任教員に対して個別研究室を設置していたが、もともと所属していた研究科棟に研究室を設けていたため、１箇所に統合されていなかった。 |
| 課題解決計画 | (例)　20XX年度にキャンパスの配置見直しを全学的に実施する計画であるため、その際に本専攻の専任教員の個別研究室を１箇所にまとめるよう提案していきたいと考えている。来年度よりそのための全学的なワーキンググループが設置され、研究科長が構成員となっているため、意見を提案していく計画である。＜別添資料＞「改善計画PPT資料」６～７頁 |

※必要に応じ、記入欄はコピーして使用してください。